

多読クラブ会員の皆様へ

書籍追加のお知らせ（2007年4月）

My Weird School（変な学校）シリーズに3巻追加

●Ms. Hannah is Bananas! YL:3.0 総語数:7000

美術の先生 Hannah 先生は、鍋つかみで作った服を着て、がらくた集めが好きで、物が捨てられません。そんな Hannah 先生は、想像力を豊かにして欲しいと願っています。

物知り Andrea は、A.J. が絵を描く時間に何もやっていないのを見て先生に告げ口をします。A.J. は、何も書いていない白のままの紙をさして「これは、シロクマの絵で、雪の中で、バニラ・アイスクリームを食べています」と。。怒られると思ったのに逆に Hannah 先生に褒められてしまいます。先生は、なんだか変。それに先生達の部屋では、なんだかすごいことをしているらしい?? なんだ???

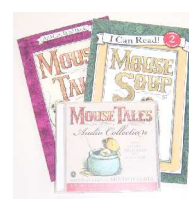
他に以下2冊

●Mr. Klutz Is Nuts! YL:3.0 総語数:7500

●Mrs. Roopy Is Loopy YL:3.0 総語数:7000

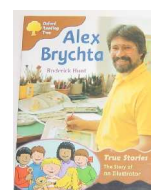


先日、シャドーイングに関するセミナーで、ICRの●Mouse Talesと●Mouse Soupがシャドーイング入門にお勧めと聞きました。本だけはもともとありましたが、作者自身(Arnold Robel)の読み上げCDを付けました。本も2冊増やして両教室に置いてあります。レベル1.5です。「がまくんとかえるくん」の作者です。



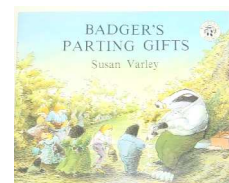
●Alex Brychta Oxford Reading Tree: Stage 8 YL:0.9 総語数:500

ORTのイラストを描いているAlexの物語。AlexはCzechoslovakiaだった頃のPrague(プラハ)で芸術家の両親のもとに生まれました。Soviet侵攻の際に、祖国を離れて英国に渡るという大変な体験をしたのでした。子供の頃から才能を発揮していたようで、この本にも彼が13歳の時の絵が載っています。Oxford Reading Treeのイラストを描くことになったいきさつもわかります。ORTファン必読!



●Badger's Parting Gifts YL:2.5 総語数:900

森でみんなから慕われ、存在感の大きかったBadgerが、寿命を終えるときがやってきました。他の動物たちは、Badgerの死を悲しみ、つらい冬を過ごします。やがて、春が来、動物たちはBadgerの思い出を語り合います。親しい人の死をどう受け入れるべきか、また、いかに生きるべきかを考えさせられる本。大人が読みたい絵本のひとつです。邦訳の「わすれられないおくりもの」は、とても有名ですが原書での味わいも、また格別。



●Good Job, Little Bear YL:1.5 総語数:650

●Let's Go Home, Little Bear YL:1.5 総語数:650

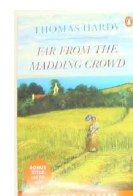
ちいくまくんシリーズから2冊(絵本)。おおくまさんとちいくまくんは雪の中をおうちに急いでいます。ところがちいくまくんは立ち止まってばかり。『何か聞こえるよ!』。おおくまさんは何でもないと言うのですが・・・



以下、ペンギンリーダーにレベル4以上を追加しました。

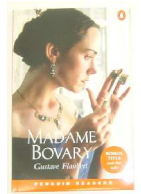
●Far From The Madding Crowd YL:4.4 総語数:21000

静かなイギリスの田園地帯を舞台に、1人の女が、求婚を迫る3人の男をめぐる、盲目的な愛情にほんろうされていく。愛とはいかなるものなのか。この難問に露骨な解答を与えた19世紀イギリス、リアリズムのひとつの典型。



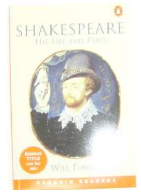
●Madame Bovary YL:6.0 総語数:33500

1850年頃に書かれた Flaubert の作品（古典）。Emma Bovary は医師の妻である。誠実でまじめな夫との平凡な生活に退屈している。Emma は無意識のうちに自分に何かすばらしいことがおきないかと想像をめぐらす。そしてその変化を求める心は、情熱的な恋の予感を持つようになる。情熱の嵐に流される不貞の妻の物語だけではなく、中流家庭のどこにでもいるような人々の心理描写がとても興味深い。



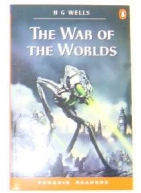
●Shakespeare, His Life and Plays YL:4.0 総語数:15100

Shakespeare の伝記に作品をおりまぜて紹介している。Shakespeare のできちゃった結婚、スポンサーの話など Shakespeare の作品に興味がある方にはおすすめ。



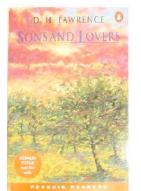
●The War of the Worlds YL:5.5 総語数:28100

ある夜、火星に白熱光を発するガス状の大爆発が観測された。数年後のある晩、南部イギリスの人々は未知の物体が夜空を切り裂いて落下して来るのを見た。落下物から現れたのは…。H・G・ウェルズの「宇宙戦争」の原作で、SF 宇宙名作の原点です。



●Sons and Lovers YL:5.0 総語数:18000

20世紀イギリスを代表する作家の一人 Lawrence の自伝的小説。主人公 Paul Morel は、父親に愛想を尽かした母親の愛情を受けて育つ。やがて成人し、母を愛しながらも、その一方で二人の女性と関係を持つに至る。母親にも恋人にも依存したい Paul に、Lawrence が用意した結末は重い。



●The Time Machine YL:4.5 総語数:21500

The Time Traveler さんは自分でタイムマシンを作り、802,701年の未来に行ってしまう。より知的な人間と高度な発明にあふれたすばらしい世界をイメージしていたのだが、実際には人間たちは弱くて子供っぽくなっていた。さて、The Time Traveler さんは未来から今に戻ることはできるのだろうか？



編集後記 こども式シャドーイング

100万語多読のももとの提唱者である酒井先生が、みずからのホームページを立ち上げてから、すごい勢いで、こども式英語習得に関する情報を発信されています。その一つがこども式シャドーイング。シャドーイングとは、聞こえてきた英語をほぼ同時に自分でも真似して言うという練習です。同時通訳の練習に昔からよく利用されてきた方法ですが、こども式はかなり、その方法や考え方が異なります。なにせ、聞こえてきた英語の意味は考えない。音だけに集中して内容は無視。正しい英語を言おうとしない。というわけで、従来のシャドーイング（おとな式）とはまったく正反対のやりかた。英語ではどうしても内容を考えてしまうという人は、メチャクチャ速い音源を使うか、まず他の知らない言語でこども式に慣れることを勧めています。イギリスの BBC のサイトでスワヒリ語ニュースをダウンロードしてシャドーイングしてみようなんて言い出す人も。。。シャドーイングについては「多聴・多読マガジン」にくわしく書いてありますのでご参照ください。ただし無理してやることはありません。ヘンミ